

令和元年度 文京区立金富小学校 授業改善推進プラン

第1学年

教科	指導上の成果と課題の分析	授業改善の具体的な方策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・大勢の前で口形を意識してはっきりと話せる児童は、7割程度である。相手の方を見て話そうとする意識はもつようになった。自分の思いを分かりやすく伝えることに課題がある。 ・聞くことについては、話している人の方を向いて聞ける児童は、8割程度である。話の内容を理解して、質問したり、感想を述べたりできる子は、5割程度である。【話すこと・聞くこと】 ・読書をすすんで行う児童は、9割程度である。あとの1割は図書の間でも何の本を読んでいるのか分からないという現状である。 ・音読は、言葉の意味を捉えてできる。さらに読み物によって声の大きさや強弱、速さの変化をつけて読めるようにしていく必要がある。 ・物語文や説明文については、9割程度大まかな内容を読み取れる。書かれている背景についても深く読み取れるようにしたい。【読むこと】 ・書くことについては、バランスよく書けなかったり、濁点や半濁点の位置を正しく理解できていなかったりする児童が1割程度いる。 ・文章を書くときに促音、拗音、「は・を・へ」を正しく理解できていない児童が3割程度いる。【言語事項】 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真や映像を見て、「あ」「い」「う」「え」「お」の口の開け方を意識できるようにする。(日々の音読を通して) ・全体的に語彙が少ないのを感じた。物の名前、様子を表す言葉などのカードを提示して、言葉の使い方について話し合う。 ・話す内容を整理できるようにメモを書き、「何について話しているのか」「なぜそう思うのか」など伝えることが明確になるようにする。 ・聞くことについては、感想や質問をするときに「何について話しているか」から外れないようにすることが大事であることを伝えていく。内容によっては、視覚的に捉えられるようにしていく。 ・週に1度は様々なジャンルの読み聞かせを行い、本に興味をもてるようにしていく。 ・教師が選んだ詩を音読し、発表する機会をもつ。「大切にしたい言葉が分かるように読もう」などテーマを決めて発表できるようにする。 ・物語文や説明文では、一人読み。ペアで丸読み。段落読み。など様々な読み方をする。その中でねらいをはっきりさせて、工夫して読めるようにする。 ・文字指導では、書写の時間をはじめ、普段から丁寧に書けるように指導していく。筆順や位置など繰り返し指導していく。 ・「は」「を」「へ」については、プリントなどで反復練習をするとともに作文や日記を書くときには、一文書いたら読み返す習慣を身に付けさせる。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・減法の文章問題において、求残と求差の区別が難しい。求差の問題では、立式の際に、ひき算ではなくたし算をしてしまう児童が全体の2割程見られる。【数学的な考え方】 ・10以内に加法や減法の計算は定着しているが、10より大きい数の加法や減法は、まだ十分に理解できていない児童が全体の1割程いる。1桁の計算はできている児童も10より大きい数の計算になると、たし算と引き算を混同してしまう様子が見られた。【技能】 ・何時、何時半の時刻の読み方を、8割以上の児童が理解している。【知識・理解】 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題の中にある、「のこりは」「ちがいは」「なんにんおおい」などのキーワードに下線を引かせ、求残と求差の違いを意識させる。 ・算数ブロックを用いた操作を繰り返し行わせることで、求差の問題も、ひき算で求められることを理解させる。デジタル教科書や書画カメラなどのICT機器を効果的に用いて、全体でブロックの操作や立式までの流れを確認する。 ・レベルアップタイムの時間を活用し、計算スキルに取り組みさせる。その際に個別の指導を行い、習熟を図る。また、1週間の中に2～3回程度、算数プリントを宿題として配布する。保護者にも丸付けをしてもらい、家庭と連携しながら児童の理解の向上に努める。 ・デジタル教科書のアニメーションなどを活用し、長針と短針の動きを確認しながら、「何時、何時半」の読み方を確認する。十分に理解できていない児童には、個々に手動操作のできる時計の教具を渡し、時刻の読み方について、個別に指導を行う。

<p>生活</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生き物への関心が高く、校庭の隅にいるダンゴムシや雨の日に見つけたカタツムリなどを飼育したり、アサガオへの水やりや支柱立てをする理由を考えたりすることができた。敷地内で自然に関わることが難しい。【関心・意欲・態度】 ・ 観察カードに気付いたことをたくさん書き込むことができた。ただし、文章表現の詳しさには個人差が見られる。【思考・判断・表現】 ・ 各学級で飼育した生き物を自分たちで世話をしたり、その生き物について調べたりしたことで、新たな気づきがあった。【気づき】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 晴れの日や曇りの日、雨の日など様々な場面で自然観察ができるようにする。その中で天候や、季節によって様子が違うことに気づき、さらに興味・関心がもてるようにしていく。 ・ グループで観察する時間を設け、お互いに気づきを話したり、観察カードを見合ったりして、友達の気づきやよさを知る。 ・ 自分で調べようとする意欲を、2学期以降の単元でも活かせる場を設定する。
<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体を動かすことが好きな子とそうでない子の意欲の差が大きい。【関心・意欲・態度】 ・ ゲームをするときにルールを守って行ったり、教師の話をよく聞いたりしてよりよい動きをしようとしている姿が見られる。自分たちで体の動かし方を考えたり、ルールを工夫したりする経験が少ない。【思考・判断】 ・ 体を巧みに動かすことが苦手な児童が3割ほどいる。スキップやギャロップ、両足踏みきり、片足踏みきりなどができない児童もいる。【技能】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 限られたスペースの中でも楽しく体を動かせるような運動遊びを経験できるようにする。また、楽しみながら多様な動きに取り組むことを通し、様々な体の使い方を身に付けられるようにしていくことで、誰もが運動の楽しさを感じられるようにする。 ・ ゲームを行う中で一般的なルールにとらわれることなく、学級の実態に応じてルールを工夫してもよいことを伝えていく。みんなが楽しめるようにしていく必要があることを伝えていく。 ・ 学習カードを利用して、個人やグループのめあてを明確にし、見通しをもって活動することができるようにする。 ・ 様々な運動体験をする中でポイントを伝え、体を巧みに使う体験が多くできるようにする。ICTを取り入れ、自分の動きを客観的に見て、よりよい動きができるようにする。